九州山口薬剤師ボランティア活動報告

＜南三陸ベイサイドアリーナ内＞

４月１１日（月）

１８：００　日薬にて前任からの活動状況報告

・南三陸、気仙沼、石巻チームからの活動内容及び申し送り事項の確認

１９：００　前任を交えた交流会

・各派遣先チームに分かれての食事会

（具体的な活動内容や今後の課題などの話し合い）

２１：００　解散

４月１２日（火）

５：００　起床

６：００　日薬出発

１１：３０　宮城県薬剤師会到着（途中買い出しや給油など２回ＳＡへ寄る）

・会長からの激励の言葉を頂き、昼食後各地へ出発

１６：３０　南三陸ベイサイドアリーナ到着

・即調剤開始

１７：００　夕食（時間があるときに各自炊き出しの食事をとる）

１８：００　ミーティング（夜間対応や明日の課題の確認）

（診療時間は８：３０～１７：００）

基本２４時間体制の調剤となり、夜勤へ入る。

２４：００までは患者もポツポツ来るくらい。

その後は特に何もなかった。

夜間受診は主に風邪や嘔吐・下痢の患者。

１７：００以降は１０名程度の受診。

４月１３日（水）

６：００　起床（僕は夜勤志願したため不眠）

７：００　ミーティング

７：３０　朝食

８：３０　診療開始

１１：３０　昼食

１７：００　診療終了

１７：３０　夕食

１８：００　ミーティング（終了後は夜間対応）･･･体育館で就寝

４月１４日（木）
６：００　　起床
７：００　　ミーティング
７：３０　　朝食
８：３０　　診療開始
１１：３０　昼食
１７：００　診療終了
１７：３０　夕食
１８：００　ミーティング（終了後は夜間対応）
夜間対応に入る。（狭心症発作、喘息発作での薬剤払い出し）

４月１５日（金）
６：００　　起床
７：００　　ミーティング
７：３０　　朝食
８：３０　　宮城県薬剤師会へ出発
１０：４０　宮城県薬剤師会到着（会長へ活動内容及び現場の状況報告）
１１：３０　後任のチームとの食事会（申し送り事項などの確認）
１２：３０　後任チームを見送り日薬へ向けて出発
１７：３０　日薬到着
１８：００　各班と合流し、情報交換を兼ねた食事会
２２：００　解散

＜移動＞
日薬からレンタカーが支給されており、南三陸、気仙沼、石巻のチームに分かれ高速道路で現地入り。

＜業務内容＞
●調剤業務
・診察が終わると、医師または患者さんがカルテを薬局へ持参。
・ピッキング者と薬袋記載者に分かれて調剤
・ピッキングした者は、薬袋の監査
・薬袋記載した者は、薬剤監査および服薬指導
・薬袋は基本１人に対し１つのみ（災害対応緊急薬袋で対応）
・薬歴記載なし

・カルテに服薬指導した薬剤師名を記載するのみ（例　AP 古賀）
・先発品・後発品は自由に替えてよかった
・同種・同効は医師と相談
・規格がない場合は倍量投与・半量投与あり（5mg１錠→2.5mg２錠など）
・慢性疾患の方はおくすり手帳や診療報酬明細書、薬情など持参があれば確認できるが、ない場合には聞き取りや写真を見せて確認
・一包化はできない（電気がなかったのと、機械がなかったのもある）
・子供の風邪には約束処方で対応（TMAT 持参薬の HAMP 処方）10kg、15kg、20kg
・シロップは医師にもよるがほとんど出なかった
・冷所保存あり（毎日保冷剤を交換するだけ）
・注射剤は払いだすのみ
・医師も薬剤の把握ができないため、薬剤師からの薬の提案が多かったように思える

●医療チームへの対応
・朝、夕の 2 回各医療チームが薬を補充に来る
・リストを書いたメモの薬を集めて、そのまま払い出し
・在庫がない薬に対しては相談

＜ライフライン＞
・電気なし（２４時間の自家発電は医療ブースのみ）
・水道なし（自衛隊による給水ブースあり）
・ガスなし（炊き出し用にプロパンガスあり）

食事は炊き出しによるものがあるので困らなかった。
水道がないため、歯磨き・手洗いは自身の水で対応
歯磨きは基本どこでも自由（いろんなところで歯磨きしてました）
ガスがないので温かいものが食べれない（カップ麺は食べれなかった）
トイレはあるが、水で流せない
風呂は毎日自衛隊の風呂がある
寝る所は薬局のブース、体育館の空いてる所（支援物資がある場所)、外のテント
被災者は車での寝泊まりも多かった
ノロウイルス患者は家族ごと隔離するテントでの生活（４世帯くらい）
被災者は朝５時から活動してました。

　僕が今回行かせていただいた、南三陸は町全体が被災にあっており、何も残ってない状態でした。
大きな建物で言うと、ベイサイドアリーナ・小学校・中学校・高校だけだと思います。
自宅が残ってる方でも夜には避難所へ戻ってくるような光景も見ました。
薬剤師は、現地の方で４名と聞いてます。
その中でも、公立志津川病院の薬剤師の方２名がベイサイドアリーナ内で活動されており、被災にあいながらも再建のために頑張ってる姿を見てきました。
１５日からイスラエルの医療チームが残したプレハブで診療が始まったそうです。
薬局は１８日からの予定と聞いて帰ってきました。
これからは少しずつ現地の方に任せていくような計画を聞きましたが、志津川病院の薬剤師の方は５月いっぱいまで派遣が続いてほしい、できればもっと続いてくれると助かると言ってました。
僕もまた公立志津川病院が再建できた時には足を運び、お世話になった先生に会いに行きたいです。
やり残してきたことはたくさんありますが、ある１冊のノートを残してきました。
今回、九州山口でチームを作り各班に分かれての活動だったんですが、その中でうまく伝わらないことが多かったように思えます。
そこで「九州山口薬剤師ボランティア　南三陸班」というノートを残しました。
前任が何をしてきたのか、後任に伝えておきたいことなどを書くノート（業務日誌）です。
そのノートを思いついたのが最終日前日だったので感想だけ残してきましたが、後任はしっかり活用してくれてると思います。
最後の班までつないでくれると南三陸での九州山口チームが何をしてきたのか、どんな思いで仕事をしてきたのかが分かるはずです。
僕の手元に戻ってくるか分りませんが、もし戻ってきたときは報告します。

何をしてきたんだろう？と思われる先生方もいるとは思いますが、日ごろの業務と何一つ変わらないことをしてきました。
普段やっている仕事をやってきただけです。
何も難しいことはありませんでした。

最後にこのような形での報告になりますが、いろんな意味で今回ボランティアに参加できたことを感謝しています。

平成２３年４月１５日
九州山口ボランティア　南三陸班　古賀　寛

九州山口薬剤師ボランティアの写真

＜南三陸班＞

＜日薬にて＞
第５班からの活動報告状況
みんなグリーンの服を着てますが、これは今年の日本薬剤師会学術大会のスタッフ用に作られたものです。
今回ボランティアに配布されました。

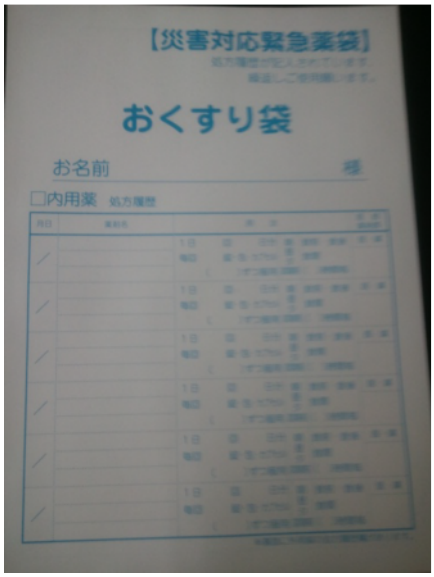
日薬から支給されたレンタカーです。
南三陸はハイエースのバンでしたが、たまたまこの写真しかなくてすいません。
運転席側に見えるのが緊急車両の証明書です。
これがあったので高速道路は無料でした。

＜中学校からの風景＞
見ての通り何も残ってない状況でした。
奥に見える建物は公立志津川病院です。
だいぶ重機が入り撤去されてますが、まだまだ時間はかかりそうです。

＜ベイサイドアリーナ内薬局ブース＞
医薬品は前任が仕分けしてて薬効別に分けてありました。
しかし、どこに薬があるのか分からず調剤に時間はかかりました。
明るいのは１８：００～２０：３０までで、後は暗い状態です。

薬品は約６００以上あると聞いてました。
ここまでやるのも相当な時間がかかったのだと思います。
薬効別に分かれてるんですが、なかなか探し出せないのが現状です。
みんな苦労したと思います。

薬局は、こんな感じです。
机の手前はＯＴＣが並べてあります。
窓際には寝袋や毛布があり、みんな後任のためにいろんな物資を置いていってました。
掃除もしてなくて環境は悪いです。



これが、災害対応緊急薬袋です。
この中に必要な薬剤をすべて詰めて患者さんへ渡してました。
薬情はありません。
患者さんのことを思うと、これだけじゃうまく服用することもできないように思えましたが、そんなことは言ってられません。
裏には外用を書く所もあります。

診察室です。
ここでいろんな方が毎日診察を受けてます。

薬局内での仮眠の状態です。
日中はここで約５～６人の薬剤師が対応してます。
これは夜間の写真。
狭いスペースで夜を明かしました。

この写真はノロウイルス患者が隔離されてるテントです。
中には約４家族が隔離されてると聞いてました。
たぶん６～８畳くらいのスペースです。
配膳は薬剤師がやってました。

外のテントの様子です。
ここは主に荷物置き場に使ってましたが、現地入りした時は寝泊まりした先生もいます。
とても夜は寒かったようです。

公立志津川病院の薬剤師の柳沢先生です。
自身も気仙沼に自宅はあるんですが、被災にあいながらも毎日来ていろんな対応に追われてました。
すごく優しい先生です。

公立志津川病院です。
被災した方から聞いた話ですが、４階からベッドが流れ出るくらい津波は高かったそうです。
病院は海沿いにありました。

自衛隊のお風呂です。
熊本の自衛隊が持ってきたものなのか、旗には「くまもと」と書いてあります。
入浴時には「のれん」がかかり、そこには「火の国の湯」と書いてあります。
思わず現地の方と一緒に入浴しました。
男女は時間帯別ですよ！

ちょうど帰る日に開設した屋外の仮設診療所です。
イスラエルの医療チームが残したものです。
輸液なども残してあり、処分に困りました。
薬局も１８日から開局予定と聞いてます。

町の風景です。
こんな景色があたり一面広がってます。
全て流されてしまった町です。

別の場所です。
手前はだいぶ撤去されてるようですが、まだまだ手がつけれない場所がたくさんありました。

防災対策庁舎です。
ここで最後まで逃げるよう呼びかけた方の話を聞きました。

海辺のマンション（集合住宅）
建物は残ってますが、４階まで津波は来てたそうです。
手前の電柱は復旧のために建ててある電柱です。１５日の夕方に一部電力が復旧したと聞いてます。

避難所（ベイサイドアリーナ）の仮設トイレです。
ブルーシートの場所は主に小便用
鍵はないです。
「ノロウイルスが流行ってます。手指の消毒をお願いします」と掲示してありました。

志津川地区の仮設町役場です。
中には役場のほかに警察、消防、郵便局などが入ってました。

九州山口ブロックから南三陸へ派遣されたメンバーです。
左３人は長崎県薬剤師会から、右２人は熊本県薬剤師会からの派遣です。
ちなみに僕は一番右端です。
みんな最後の日は疲れ切ってました。

被災直後の南三陸町志津川地区の様子

南三陸町ホームページ
http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/

みなさん応援して下さい。